

杖道ライブ観戦

杖道を見ての一番最初に思ったことは、防具をつけてないことに驚きました。授業で思ったのは、試合のときは防具をつけていると思った為とても驚きました。試合会場の雰囲気は、とても神聖なもので皆試合に集中していて少し場違いだと感じてしまいました。打つ・突く・払う技などを、相手に当たらないようぎりぎりのところで技を止め、気合を入れているためか、打ち込ときに「エイッ!」、突きで「ホォッ!」みたいな感じで発音していて試合を実際に行っていないかとても迫力が伝わってきてとても楽しんでみる事ができました。

自分自身も小学校から高校生まで武道を経験していたので杖道の勝敗の決め方についてすごく気になり考えながら試合を見ていて、自分なりに考えたのは、形の優劣で勝敗を決めているのかなと思いついてネットで調べてみたら試合は2組で紅白に分かれ、決められた手順の形を演武し、審判員の評価（旗の多数決）で勝敗を決める。剣道のような自由に技を掛け合う試合ではない。と記載してあり、自分が考えていたものと一致していました。最初は、よく分からなかったのですが見ているうちに内容も分かってきて楽しくなっていました。

もっと詳しく知りたいと、思い調べてみました。杖道の形は太刀を持った相手に対して杖の技を繰り出す組形になっており、太刀を持つ方を「打太刀」あるいは単に「打」と言い、杖を持つ方を「仕杖」あるいは単に「仕」といいます。試合には数通りの方法がありますが、一般的には、二組が同時に指定された技を演武し、「仕」「打」両方の技の優劣を判定する方法と、「仕」のみの技の優劣を判定する方法があります。剣道、柔道、空手道のように、一本を取り、競い合う試合ではありません。判定は主審1名、副審2名の3名により。技の優劣の判定を下します。審判方法については、全日本剣道連盟の「杖道試合・審判規則」によります。と記載してありとても深いと思いました。

この3枚の写真を選んだ理由は、1.2枚目はお互いの攻防が繰り広げられていてとてもカッコいいシーンで気に入ったのでこの画像に決めました。とても迫力があり、画像からでも緊迫感が伝わってきます。3枚目の画像は、今からは戦うというお互いの気迫が伝わってきて、見ていこちらも緊張してしまいました。

今後もう少し杖道について調べてみたいと思います。





